

「Fukuoka Art Next」 今月のアート（2・3月）

福岡市は、彩りにあふれたアートのまちを目指して、暮らしのなかで身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」を推進します。

市民がアートを身近に感じられるよう、福岡で活躍しているアーティストの作品を、月初めの定例会見において紹介します。

■ アーティストについて

井上 愛理（いのうえ あいり）

1992年熊本県生まれ、福岡市在住。独学で写真撮影を行い、2019年に初個展。自然、人、動物、植物などに目を向け、それら地球にある命が全て平等にあるというコンセプトでライフワークとして写真を撮り続けている。2024年「Fukuoka Wall Art Project」入賞。

■ 作品について



作家名 : 井上 愛理
作品名 : All living things have meaning
制作年 : 2024年
材質技法 : プリント・フォトアクリル
サイズ : 29.7×21.0 (cm)

暗がりの中で、花びらを落としながら咲く一枝の椿が光に照らされています。上の方に何も写っていないのは、フィルムの一部をわざと感光させて撮影しているからです。写っている部分との境界に生じたゆらめきに、作者はメラメラとたぎる生命力を見出し、散り際の椿のはかなさと美しさを表そうとしました。厳しい寒さの中にも春の芽吹きを感じさせる、この季節にぴったりの作品です。

【お問い合わせ先】

経済観光文化局美術館学芸課 担当：宮田、後藤

TEL：714-6054 FAX：714-6145 E-mail：miyata@fukuoka-art-museum.jp